

# 中期経営計画について

株式会社 東京金融取引所

2020年1月



# 当面の市場環境と基本方針

## 当面の市場環境

### 金利先物等取引事業

極度の金融緩和等のもと取引ニーズがほぼ消失。

### 証拠金取引事業

間接営業にとどまり、店頭業者との競争は厳しい。

## 金融サービスと金融商品取引所を取り巻く環境

情報通信技術の革新により、内外の多様な事業者との競合が進展している。



**わが国の金融市場の発展に貢献することで  
自らも利益を得るという基本に立ち返り、  
「展望大局、着手小局」により個々の施策に取り組む。**

## ステークホルダーとのコミュニケーションの拡充

- 市場参加者ニーズ、投資家ニーズの迅速な汲み上げをはかる。
- 経営計画の内容について、広範な関係者に対する丁寧な情報発信を行う。
- 施策実施に当たり、取締役会等で事前に採算性を念査の上、組織的に決定する。

## 経営計画

計画期間	5年（2020年4月1日～2025年3月31日）
中間レビュー期間	3年（2022年夏、進捗状況のレビューを行う）

# 具体的な施策：収入構造の見直し ①

## (1) リテール事業

### (i) CFDの拡充

- ・リセット付きCFDの早期の取引開始に向けた具体化を推進
- ・公正な価格指標の存在、マーケットメイカーの確保、投資家の潜在ニーズという条件が見込まれる金融商品（金等商品価格連動ETF、REIT）及び新しい株価指数などについて商品化への実現性・方向性を検討

### (ii) 外国投資家の開拓

- ・台湾、香港等でのリテール取引が認容された時点で、営業展開を実施

### (iii) 金融機関の業務運営等に対するパーツ提供

- ・FX、CFDを内包した新たな金融商品（外貨預金、投資信託等）の組成
- ・金融機関の役務提供等に用いられる商品・サービスの開発
- ・生損保、投信・投資顧問、商社等の非インターバンクプレイヤーにおける取引ニーズの掘り起こし

## (2) ホールセール事業

### (i) クリアリング事業の拡張

- ・NDF（ノンデリバラブルフォワード）、通貨スワップ・オプション、ABS(資産担保証券)等の取引に関するクリアリング導入の検討



全施策を速やかに実施

# 具体的な施策：収入構造の見直し②

## (2) ホールセール事業

### (ii) 信用リスクの管理手段の提供に関する検討（実施方法の検討）

- ・具体的な信用リスクの管理手段について広範な関係者とともに実現性・方向性を検討

## (3) 事業相手の拡大

### (i) 海外事業者との連携

- ・海外事業者の市場参加やサービス提供のための連携を行うこと等の促進

### (ii) 異業種の事業者との連携

- ・従来金融サービスを提供していなかった事業者と連携した金融サービス提供の可能性を模索



**最善な実現モデルを形成、中間レビュー後、実施に向けて具体化**

# 具体的な施策：費用構造の見直し

2020年度以降、年間4億円の経費削減につながる施策を行い、収支構造の改善を図る。

## (1) 事務所費用の削減

2019年度実施した事務所スペースの削減による2020年度以降の経費圧縮。

## (2) システムの更改

システム更改による、2020年度以降のランニングコスト削減。

## (3) その他冗費の節減

様々な支出について、企業の実態に応じたものに見直す。  
(役員報酬については、19年度において大幅な削減を実施)

更に以下の早期に取り掛かれる施策を実施

## 組織編成の改正

2019年12月、リテールとホールセールの事業展開に対応した組織編成とした。

## 具体的増収策

システムの大きな変更を行わず実施可能な施策を直ちに  
行い、確実に収支改善につなげる。

これにより当期純利益を平均 2 億円以上とすることを目指す。

# 中間レビューにおける計画の見直し



中間レビューにおいては、以上による業況の点検に加え、信用リスクの管理手段の提供、事業相手の拡大及び金利リスクの管理手段の提供等に関する展望を踏まえ、次回のシステム更改のあり方を検討し、これらの比較衡量等に応じて経営計画を見直すこととする。



2020年1月

株式会社 東京金融取引所